

2024年度成人科テキスト

月刊「ぶどうの木」

10月号



そして、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、
パンを裂いて弟子たちにお渡しになった。(マタイ14:19)

名前

目次

証し	渡辺禎子姉	・・・ 2
解説・エレミヤ書		・・・ 3
第27課「エレミヤの召命」		・・・ 5
ショートメッセージ：田中由記子姉	聖書日課：工藤征治兄	
第28課「真の幸いに至る道」		・・・ 9
ショートメッセージ：郷健人兄	聖書日課：宇佐美典子姉	
第29課「エレミヤの傷と苦しみ」		・・・ 13
ショートメッセージ：栗山義重兄	聖書日課：渡部和子姉	
第30課「真の牧者」		・・・ 17
ショートメッセージ：郷秀男兄	聖書日課：小沢敬一兄	

表紙イラスト：友納聖子姉

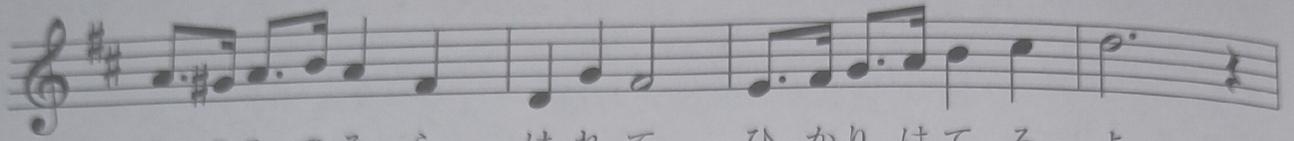
おしらせ

- 成人科は毎週日曜日 10：15～50 地下フェロシップホールにて行っています。ぜひご出席ください。
- ショートメッセージの動画は、教会ホームページからも視聴できます。上部メニューから「教会学校」をクリック→「成人科」をクリック
- ショートメッセージと聖書日課を、メールで受け取ることができます。ご希望の方は成人科奉仕者（ショートメッセージ、聖書日課の執筆者）にお声がけください。
- 「ぶどうの木」のボックスへの配布をご希望される方も、奉仕者までお知らせください。

しゅにしたがうことは

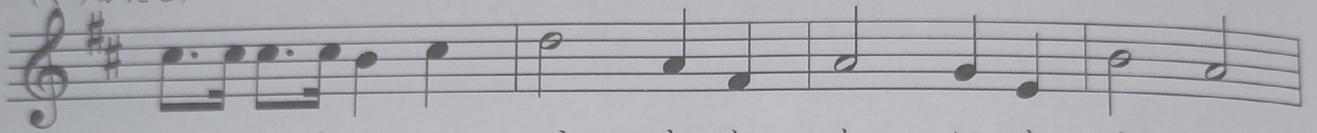


1. しゅにしたがうことは なんとうれし いこと
 2. しゅにしたがうことは なんと いうし あわせ
 3. しゅにしたがうことは なんと ころ づよい



ころのそら はれて ひかりはてるよ
 わるいおもい きえて ころはすむよ
 おそれのかげ きえて ちからはますよ

(くりかえし)



しゅのあとにつ づ きと もにす すもう



しゅのあとにつ づ き う たっ てす すもう

1 ^{しゅ}主にしたがうことは なんとうれしいこと。

^{ころ}心の空 ^{そら}晴れて ^は ^{ひかり}光はてるよ。

(くりかえし)

^{しゅ}主のあとにつづき ^{すす}ともに進もう。

^{しゅ}主のあとにつづき ^{うた}歌って ^{すす}進もう。

2 ^{しゅ}主にしたがうことは なんと ^{しあわ}いう幸せ。

^{わる}悪い思い ^{おも}消えて ^き ^{ころ}心はすむよ。

(くりかえし)

3 ^{しゅ}主にしたがうことは なんと ^{ころづよ}心強い。

^{おそれ}おそれのかげ ^き消えて ^{ちから}力はますよ。

(くりかえし)

証し

渡辺禎子

「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。」

(ローマの信徒への手紙 10章 17節)

『伝道』と『教育』は車の両輪」と繰り返し聞きながら育ったわたしにとって、聖書の学びはクリスチャンとして必要不可欠であるという意識が根付いています。ベースとしては学びたいという欲求よりも、学ぶべきという意識の方が強いかもしれません。

ただ、不思議なことに「学ばなければ」という「意志」からでも、飛び込んでみると面白く楽しいと繰り返し体験しています。青年会の頃の「ジョイフルウェンズデー」(水曜夜に牧師+青年で聖書を通読する会)しかり、例会しかり。そして今、成人科もわたしにとっては義務ではなく「楽しみな時間」となっています。

聖書を共に学び分かち合う中で、「神様が一人ひとりに違ったかたちで働きかけてくださる」と実感できるのが一番大きな楽しみ・喜びかもしれません。一つの聖書箇所が、それぞれの心にどう語り掛けられたか聞きあうときに、いつも新鮮な視点が与えられ、御言葉の広さ・深さを感じます。

最近、仕事でも趣味でも、インプット(知識や情報を得る)と同じくらいアウトプット(得た知識や情報をもって行動したり話したりする)が重要だと感じています。たとえば趣味の「船釣り」に関しても、YouTube等で釣り方を研究したり、実体験をもって学んだりした内容を、毎回言語化し仲間と共有するようにしたことで、成長スピードが格段に上がったと感じています。アウトプット前提だと、インプットの質が変わるなど…。成人科も、分かち合い(アウトプット)の時間があることで、より真剣に、能動的に聖書と向き合っ御言葉を吸収(インプット)するような感覚があり、わたしにとって必要な時間です。

さらにこの場は聖書を中心とした「世代を超えた交わり」であり、多くの「証し」に触れられる場でもあることも感謝です。この輪が広がり、いつか地下におさまらなくなって会堂でやるくらいになるといいなあと思っています。

解説・エレミヤ書

【預言者エレミヤ】

エレミヤはエルサレムの北方4Kmほどの寒村アナトトの地の祭司ヒルキヤの子として南ユダ・マナセ王(前698～644年)の悪政で国が荒廃していた時代に生まれました。8歳で即位したヨシヤ王(前640～609年)の治世第13年に主の言葉(前626年)がエレミヤに臨みました。その時、まだ20歳前後の若者でした。エレミヤの預言はヨシヤ王の時代から南ユダ王国・エルサレムがバビロンにより滅亡するまでの40年間にわたりました。バビロンからエルサレムを救おうとしましたが敵いませんでした。

しかし、歴史を支配される神は、エレミヤを地方の祭司職ではなく預言者として召されました。いつの時代もその出自の如何を問わず、神の御業のために必要な時に、必要な者を召し出されたのです。

【アッシリア・エジプト・バビロンの時代】

エレミヤの時代、イスラエルを取り巻く情勢は北方ユーフラテス川流域にあってニネベを首都としたアッシリアが300年の栄華に陰り出て力を失いつつありました。(前612年ニネベ陥落、前609年滅亡)

南ユーフラテス川流域の小国であったバビロンは次第に勢力を増してアッシリアに侵攻(前616年)を始めて行きました。南からの脅威はエジプトでアッシリアを援護するために北進してきたエジプト軍をヨシヤ王はメギドで応戦(前608年)しましたが敗れ、致命傷を負った王は亡くなります。エジプトはさらに北進しましたがカルケミシュ(前605年)でバビロン軍に敗北してエジプトへ退却します。

ヨシヤ王の死後、ヨアハズが王位(前609年)につきましたが主の目に悪政を行い国を混乱させました。南ユダに支配力のあったエジプト王に廃位させられエジプトで捕虜として亡くなります。南ユダの支配は次第にエジプトから力を増したバビロンへと変わります。次の王、ヨシヤの息子ヨヤキム(前609～598年)もバビロンに隷属するとみせかせて反旗を翻しますがバビロンの前に屈します。強大になったバビロンによりエジプトは南ユダへの影響力を完全に失います。バビロンは次の王、ヨヤキン(前598～597年)を三カ月の王位の後にバビロンへ捕囚(第一次捕囚)として連れ去り、ゼデキヤを王(前597～586年)とします。彼はエレミヤに好意的ではありましたが弱く役人の言葉に流されバビロンに反逆し、ついにエルサレムは陥落(前586年)します。ゼデキヤとユダの民はバビロンへと捕囚(第二次捕囚)として連れ去られました。こうしてアッシリアを滅亡させ、エジプトをも撃退したバビロンは70年間、中東地域全域を支配します。その支配の70年の間、ユダの民のバビロン捕囚は続きました。

【エレミヤの時代】

預言者エレミヤは召命(前626年)から南ユダ王国の滅亡(前586年)までの40年間、ヨシヤ王、ヨアハズ王、ヨヤキム王、ヨヤキン王、そしてゼデキヤ王の治世の時代に神の言葉を取り次ぎました。

モーセ五書に現わされた神の言葉を忘れたユダにはヨシヤ王の宗教改革にも関わらず根深い不信仰がありました。エレミヤによる度重なる神の言葉の取次にもユダの民が聞き従わず神の裁き・災いの日は近いと警告された通りに王国は滅びました。しかし、エレミヤは王国が滅んでもユダの民が悔い改めることが出来たならばバビロンから神は救ってくださると最後に希望の預言を告げたのです。

神はこの捕囚の時代に、バビロンの地で捕囚の民のなかから預言者エゼキエルを召しておられます。

同じく、この時代に預言者ハバクク、ゼファニヤ、ナホム、オバデヤ、ダニエルが立てられました。

第27課 エレミヤの召命 1:1～11

- **アーモンドの枝** ヘブル語のアーモンドの動詞は「見張っている」の意味がありません。自分は若く経験がなく怖れるエレミヤに神がご自身の計画を見守り遂行されるのであり、エレミヤは主の器として用いられるのだと説きます。
- **煮えたぎる鍋** 北方からバビロンと従属する勢力が南ユダ王国・エルサレムに攻め寄せようとしていることを表しています。

第28課 真の幸いに至る道 6:13～17

- **エルサレムの墮落と北方からの脅威** 南ユダには北イスラエルの滅亡の意義が見えず、偶像礼拝をやめようとしないうエルサレムにネブカドネツアル王率いるバビロン軍が迫っていた。
- **天の女王、ベン・ヒノムの谷(7章)** 天の女王はカナン第一の女神アシュタロケ。ベン・ヒノムの谷はモレク神に生贄として子どもたちをささげていた。
- **主の神殿(7章)** 宗教指導者たちは主の神殿に偶像を建てても、神殿の存在があればエルサレムを滅ぼされることはないと考えていた。

第29課 エレミヤの傷と苦しみ 10:17～24

- **異国の民の道** バビロンの脅威は、あたかも偶像がユダの民に救いをもたらすと偶像制作がさかんに行われた。
- **山犬のすみか** 強大なバビロン軍がエルサレム、ユダの町々に侵攻して荒廃した状態を指す。
- **契約の言葉(11章)** 神は言われました。ユダの民は昔、先祖が犯した罪に戻り、わたしの言葉に聞き従うことを拒み、他の神々に従って礼拝している。ユダの民はわたしが彼らの先祖と結んだ契約を破った(11:9)

第30課 真の牧者 23:1～6

- **正しい若枝** 腐敗、墮落した宗教指導者、南ユダ王国の王たちに対する激しいエレミヤの糾弾のなかでも来るべきメシアの預言を取り次ぎました。
- **偽預言者** 彼らは自分のメッセージを神の御名をもちいて語り、エレミヤの最大の障害となっていたのです。

参考図書

「新聖書購解シリーズ エレミヤ書・哀歌」 1989年 いのちのことば社
「バイブルガイド」マイク・ボーマント 2015年 いのちのことば社
「バイブルワールド」ニック・ページ 2016年 いのちのことば社
「新聖書ハンドブック」ヘンリー・H・ハーレイ 2023年 いのちのことば社

(文責・郷秀男)

第27課 エレミヤの召命

聖書箇所：エレミヤ書1章1－10節

主題聖句：母の胎から生まれる前に わたしはあなたを聖別し
諸国民の預言者として立てた。(5節)

1 エレミヤの言葉。彼はベニヤミンの地のアナトトの祭司ヒルキヤの子であった。2 主の言葉が彼に臨んだのは、ユダの王、アモンの子ヨシヤの時代、その治世の第十三年のことであり、3 更にユダの王、ヨシヤの子ヨヤキムの時代にも臨み、ユダの王、ヨシヤの子ゼデキヤの治世の第十一年の終わり、すなわち、その年の五月に、エルサレムの住民が捕囚となるまで続いた。

4 主の言葉がわたしに臨んだ。

5 「わたしはあなたを母の胎内に造る前からあなたを知っていた。

母の胎から生まれる前に
わたしはあなたを聖別し
諸国民の預言者として立てた。」

6 わたしは言った。

「ああ、わが主なる神よ
わたしは語る言葉を知りません。
わたしは若者にすぎませんから。」

7 しかし、主はわたしに言われた。

「若者にすぎないと言ってはならない。
わたしがあなたを、だれのところへ
遣わそうとも、行って
わたしが命じることをすべて語れ。

8 彼らを恐れるな。

わたしがあなたと共にいて
必ず救い出す」と主は言われた。

9 主は手を伸ばして、わたしの口に触れ
主はわたしに言われた。

「見よ、わたしはあなたの口に
わたしの言葉を授ける。

10 見よ、今日、あなたに
諸国民、諸王国に対する権威をゆだねる。
抜き、壊し、滅ぼし、破壊し
あるいは建て、植えるために。」

今月からエレミヤ書を学んでいきます。

エレミヤは紀元前7世紀から6世紀にかけて、ヨシヤ王の時代からバビロン捕囚まで、40年余りもの長い年月、南ユダ王国にて預言者として活動した人物です。

エレミヤは南ユダ王国の小さな田舎町で、祭司の子として生まれました。国と国が争い、国が滅びていく…そのような激動の時代に、エレミヤは、突然、神さまから預言者としての召命を受けたのです。エレミヤは祭司の子ですから、信仰について、祭司の仕事については、よく知っていたでしょう。しかし、預言者となると話は別です。預言者とは、文字通り、神の言葉を預かって、人々に伝える役目の人です。それは、耳障りのいい、うれしくなる言葉だけではありません。むしろ、耳の痛いこと、聞きたくないこと、信じたくないことが多くあります。しかも、神さまのみ言葉を受け入れたくない人々は、預言者に文句を言い、時には預言者を襲い、神さまの言葉を否定します。そのような、できれば引き受けたくない役目を引き受けるよう、いきなり告げられたのです。

「わたしはあなたを母の胎内に造る前から
あなたを知っていた
わたしはあなたを聖別し
諸国民の預言者として立てた」(5節)

神さまはエレミヤを母の胎内に造る前から預言者として立てると決めておられたのです。エレミヤが祭司の息子であることも、意志、信仰、能力なども、全く関係なく、ただただ神の恵みによって召されたのです。

そして、「立てようとした」「立てるつもりであった」ではなく、「立てた」です。断る選択肢はないのです。

神さまからの語りかけに対するエレミヤの最初の一言は「ああ」でした。嘆きの「ああ」です。エレミヤを造ったお方が、造る前から決めておられた…もう、逃げようがありません。それでも、預言者としての召命はあまりにも重く、エレミヤは断る理由を考えます。「語る言葉を知らない」「まだ若い」と。

かつて、モーセが「私の民をエジプトから連れ出すのだ」と神から命じられた時、「全くわたしは口が重く、舌の重い者なのです」と断ろうとしたことを思い出された方も多いのではないのでしょうか。

何か、重大な役目を任される時、私たちは、喜んで引き受けることもあります。自信がない、面倒だ、などの理由から、「忙しい」「私には不向きだ」「もっと適任の方がいらっしゃるでしょう」などと何かと理由をつけて断ることがあります。しかし、それが、真に神からの召命である場合は、私たち人間に断るという選択肢はないのです。

主は、エレミヤの口に言葉を授けてくださいました。エレミヤは、その言葉をそのまま語るだけなのです。付け足したり、省いたりせず、そのままです。

主のみ言葉には権威があります。語る人が、弱く、欠けの多い者であっても、語られたみ言葉は、力をもって、主の救いを実現していきます。

とはいっても、語るエレミヤには、苦難が待ち受けていることは明らかです。主の救いを実現するためには、まず、「抜き」「壊し」「滅ぼし」「破壊」しなければならないのです。そのようなことを言われて、すぐに納得して、素直に従う民は少ないでしょう。民の怒りはエレミヤに向きます。茨の道です。しかし、主は「人を恐れるな。わたしがあなたと共にいて必ず救い出す」と言われます。

これほど大きな出来事でなくても、私たちはそれぞれ神さまから召命を受けていると思います。それは、必ずしも、自分が望んでいたこと、自分が得意とすることではないかもしれませんが、しかし、神さまからの召しである場合は、必ず神さまが助けてくださいますから、周囲の反応を恐れず、神さまを信じて、神さまの愛に満ちた語りかけを受けてまいりましょう。

～分かち合い～

- 神さまからの召命を受けた時のエレミヤの気持ちを想像してみましょう。
- 神さまの強い導きに抗えなかった経験はありますか？

今週の聖書日課

10月7日(月) エフェソの信徒への手紙 1章4-10節

4天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。5イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。6神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。7わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。8神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ、すべての知恵と理解とを与えて、9秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。10こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです。

聖書のみ言葉をただ暗唱するだけでなく、内容を吟味し、社会の現実とどう向き合っていくのかをいつも考えます。

10月8日(火) 出エジプト3章12節

12 神は言われた。「わたしは必ずあなたと共にいる。このことこそ、わたしがあなたを遣わすしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える。」

「わたしは必ずあなたと共にいる」辛い時にはとても励まされるみ言葉です。でも神は直ぐには助けてはくれません。大変だけれども、苦しみがく時間と祈る時間が与えられます。その時間を耐えられる健康な身体が必要です。

10月9日(水) ペトロの手紙II 3章8-9節

8愛する人たち、このことだけは忘れないでほしい。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。9ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。

私達は間違いをおかします。神は「悔い改める」事で再建を備えてくれます。しかし国や社会によっては、人生のやり直し→再建を容認しない所もあります。罪をキチンと償った人が、人生のやり直しを出来る社会が必要です。

10月10日(木) エレミヤ書6章10-11節

10誰に向かって語り、警告すれば聞き入れるのだろうか。
見よ、彼らの耳は無割礼で耳を傾けることができない。
見よ、主の言葉が彼らに臨んでもそれを侮り、受け入れようとしない。

11主の怒りでわたしは満たされそれに耐えることに疲れ果てた。
「それを注ぎ出せ
通りにいる幼子、若者の集いに。
男も女も、長老も年寄りも必ず捕らえられる。」

日本にも「自由/平等/民主主義」を認めない時代がありました。現在の世界にもあります。そしてキリスト教の神が示す「平和共存」が重要です。

10月11日（金）使徒言行録2章40節、3章17-19節

40ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。

17ところで、兄弟たち、あなたがたがあんなことをしてしまったのは、指導者たちと同様に無知のためであったと、わたしには分かっています。18しかし、神はすべての預言者の口を通して予告しておられたメシアの苦しみを、このようにして実現なされたのです。19だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。

キリスト教の教えを学ばなければ、私達は「自分が何をしているのかを知らない」のです。だから間違いをおかします。毎日短時間の黙想と祈りをして考えます。

10月12日（土）列王記上19章9、13、15-18節

9エリヤはそこにあった洞穴に入り、夜を過ごした。見よ、そのとき、主の言葉があった。

「エリヤよ、ここで何をしているのか。」

13それを聞くと、エリヤは外套で顔を覆い、出て来て、洞穴の入り口に立った。そのとき、声はエリヤにこう告げた。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」

15主はエリヤに言われた。「行け、あなたの来た道を引き返し、ダマスコの荒れ野に向かえ。そこに着いたなら、ハザエルに油を注いで彼をアラムの王とせよ。16ニムシの子イエフにも油を注いでイスラエルの王とせよ。またアベル・メホラのシャファトの子エリシャにも油を注ぎ、あなたに代わる預言者とせよ。17ハザエルの剣を逃れた者をイエフが殺し、イエフの剣を逃れた者をエリシャが殺すであろう。18しかし、わたしはイスラエルに七千人を残す。これは皆、バアルにひざまずかず、これに口づけしなかった者である。」

人は皆、夫々異なる能力や立場の違いがあります。自分の出来る事で、神さまのために奉仕する事が大切です。



第28課 真の幸いに至る道

聖書箇所：エレミヤ書6章13－17節

主題聖句：昔からの道に問いかけてみよ どれが、幸いに至る道か、と。(16節)

13「身分の低い者から高い者に至るまで
皆、利をむさぼり
預言者から祭司に至るまで皆、欺く。
14彼らは、わが民の破滅を手軽に治療して
平和がないのに、『平和、平和』と言う。
15彼らは忌むべきことをして恥をさらした。
しかも、恥ずかしいとは思わず
嘲られていることに気づかない。
それゆえ、人々が倒れるとき、彼らも倒れ
わたしが彼らを罰するとき
彼らはつまづく」と主は言われる。

16主はこう言われる。
「さまざまな道に立って、眺めよ。
昔からの道に問いかけてみよ
どれが、幸いに至る道か、と。
その道を歩み、魂に安らぎを得よ。」
しかし、彼らは言った。
「そこを歩むことをしない」と。
17わたしは、「あなたたちのために見張りを
立て
耳を澄まして角笛の響きを待て」と言った。
しかし、彼らは言った。
「耳を澄まして待つことはしない」と。

本日の箇所がそうであるように、預言書には戒めや警告の言葉が多く含まれるので、読むことが重荷になることもあるかと思います。しかし、語る方にも重荷があったようです。6章11節にはこのように書かれています。

「主の怒りでわたしは満たされ/それに耐えることに疲れ果てた。」

エレミヤ自身も、神さまの民に対する怒りを引き受け、語ることに疲れていたのです。それでも、主の怒りを「注ぎ出せ/通りにいる幼子、若者の集いに。」と言われる神さまに忠実に従い、民からどのような顔をされようとも使命を果たし続けたのです。

聖書に書かれている言葉は、全て神さまの言葉です。優しく耳心地の良い言葉だけでなく、神さまの怒りにもしっかり心を開いていきたいと思います。

13節に「身分の低い者から高いものに至るまで皆、利をむさぼり」とあるように、怒りの対象は特定の人に限定されていません。民全体が、それぞれの立場の中で自分中心の生き方をし、神さまの愛を実現する生活から離れていたのではないのでしょうか。そして、本来はそのような民を戒めるべき指導者たちは役目を真摯に果たそうとせず、「わが民の破滅を手軽に治療して/平和がないのに、『平和、平和』と言う」不誠実な態度で過ごしていました。医者が患者の容態をまともに見ず、本当は骨折しているのに湿布だけ渡して「治ったよ!」と言っているようなものです。

民全体にはびこる自己中心と、指導者たちの不誠実。これらが掛け合わさり、誰も自分たちの過ちに気づけない状態に対し、神さまはエレミヤを通して警告したのです。当然、今を生きる私たちにとっても大切な警告だと思います。神さまから離れた自己中心的な生き方、ということに心当たりの無い方は少ないでしょうし、またバプテスト教会は「万人祭司」の立場を採りますか

ら、指導者への警告をも我が事と受け止めるべきです。私自身、こうしてショートメッセージを書いたり、毎週の分かち合いをしたりする時に、正に口先だけの「平和」を唱えるような、安易で不誠実な態度で、「分かったような気」になって御言葉に向き合っていないか、不安になることが多々あります。

さて、神さまはエレミヤを通してただ戒めや警告を与えるだけではなく、愛ある導きも与えて下さっています。16節では、「昔からの道」に立ち返ることを通して、本当に進むべき道、「幸いに至る道」を選べと語られています。この当時において「昔からの道」とは十戒や律法でしたが、今の私たちにとっては聖書全体と捉えられるでしょう。

思えば、立ち返る場所と、立ち返る機会が備えられているというのは幸せなことです。方向音痴な私は若いころ、自転車で大塚駅から巣鴨駅の方に行こうとして迷子になり、気付けば東京ドームに着いていたことがありました。1本目の道から選び間違えたことには気付いていたのですが、引き返すことを選ばず、適当に進めばどこかで知っている場所に出るだろうと思い、突き進んでしまったのです。人生そのもので考えてみても、間違った道を突き進むことはしばしばありますし、間違えているとすら気付けない時もあると思います。聖書に示された御言葉を地図や方位磁石のようにして、本来いるべき場所に立ち返ること、そして進むべき道を選び直すことを、神さまは教えて下さっています。

17節に書かれた「角笛の響き」は、直接的には、エレミヤのような預言者が語る預言を指しています。そして今の私たちにとっては、聖書自体はもちろん、礼拝での宣教も角笛として大切な意味を持っています。さらに、先ほども万人祭司について触れましたが、私たちバプテスト教会は信徒一人ひとりが自由に聖書を読み、理解し、語り合うことを選んだ群れです。つまり、お互いがお互いの角笛となることができるのです。これはもちろん、互いに厳しく責め合い、警告しあおうという意味ではありません。共に御言葉を分かち合う時、自分ひとりでは辿り着かない読み方に触れ、心を動かされることがあるかと思えます。そうした営みの中に確かに「角笛の響き」は鳴り渡っており、神さまが正しい道へと導いて下さっているのです。ただ戒めるだけでは終わらない愛に感謝しつつ、何度でも何度でも神さまのもとに立ち返ってまいりましょう。

～分かち合い～

- 14節「平和がないのに、『平和、平和』と言う」とは、私たちの生活ではどのような状態にいることを指すでしょうか。
- 皆さんにが特に大切にされている「立ち返る機会」について、分かち合いましょう。

今週の聖書日課

10月14日(月) ローマの信徒への手紙6章4-11節

4わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。5もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるとすれば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。6わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。7死んだ者は、罪から解放されています。8わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。9そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。10キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。11このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。

「♪Oh happy day When Jesus washed my sins away～ああ幸せな日だ キリストが私の罪を清めてくださったから私の罪は洗い流された」(ゴスペルソング)
私たちの不完全さも不信仰さも不義さもすべてご存じの主が、罪の執り成しをしてくださいます。だから私たちは今、命をいただき生きることができるのです。

10月15日(火) ペトロの手紙1 4章12-19節

12愛する人たち、あなたがたを試みるために身にふりかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません。13むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど喜びなさい。それは、キリストの栄光が現れるときにも、喜びに満ちあふれるためです。14あなたがたはキリストの名のために非難されるなら、幸いです。栄光の霊、すなわち神の霊が、あなたがたの上にとどまってくくださるからです。15あなたがたのうちだれも、人殺し、泥棒、悪者、あるいは、他人に干渉する者として、苦しみを受けることがないようにしなさい。16しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、決して恥じてはなりません。むしろ、キリスト者として呼ばれることで、神をあがめなさい。17今こそ、神の家から裁きが始まる時です。わたしたちがまず裁きを受けるのだとすれば、神の福音に従わない者たちの行く末は、いったい、どんなものになるだろうか。

18「正しい人がやっと救われるのなら、
不信心な人や罪深い人はどうなるのか」

と言われておりです。19だから、神の御心によって苦しみを受ける人は、善い行いをし続けて、真実であられる創造主に自分の魂をゆだねなさい。

船荷のない船は不安定でまっすぐ進むことが難しいです。一定量の心配事や苦痛、苦労はいつも誰にでもあるものです。難しい時代の中で、キリスト者がどのように生きたらよいか、具体的な助言をしながら、神の霊が共にいて守ってくださることを伝えています。

10月16日(水) 詩編51編19節

しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。

打ち砕かれ悔いる心を

神よ、あなたは侮られません。

「一葉秋を知る」という言葉があります。神はたとえ葉一枚分ほどの小さな「打ち砕かれ悔いる心」でも見出してくださる、私たちが罪を犯したことを深く悲しみ、神の赦しと神との和解を願う心からの祈りを聞いてくださるお方です。

10月17日(木) イザヤ書44章1-8節

1そして今、わたしの僕ヤコブよ
わたしの選んだイスラエルよ、聞け。
2あなたを造り、母の胎内に形づくり
あなたを助ける主は、こう言われる。
恐れるな、わたしの僕ヤコブよ。
わたしの選んだエシュルンよ。
3わたしは乾いている地に水を注ぎ
乾いた土地に流れを与える。
あなたの子孫にわたしの霊を注ぎ
あなたの末にわたしの祝福を与える。
4彼らは草の生い茂る中に芽生え
水のほとりの柳のように育つ。
5ある者は「わたしは主のもの」と言い
ある者はヤコブの名を名乗り
またある者は手に「主のもの」と記し
「イスラエル」をその名とする。

6イスラエルの王である主
イスラエルを贖う万軍の主は、こう言われ
る。
わたしは初めてあり、終わりである。
わたしをおいて神はない。
7だれか、わたしに並ぶ者がいるなら
声をあげ、発言し、わたしと競ってみよ。
わたしがとこしえの民とするしを定めた日か
ら
来るべきことにいたるまでを告げてみよ。
8恐れるな、おびえるな。
既にわたしはあなたに聞かせ
告げてきたではないか。
あなたたちはわたしの証人ではないか。
わたしをおいて神があるうか、岩があるう
か。
わたしはそれを知らない。

「沁みる」は人の心にしみじみと感じ入るという意味で、「人の温かさが心に沁みる」「身に沁みて理解する」などに使われます。「私をおいて神はない」と言われる神のことばが私たちに沁み込んで乾いた心が潤されますように。

10月18日(金) イザヤ書46章3-4節、8-13節

3わたしに聞け、ヤコブの家よ
イスラエルの家の残りの者よ、共に。
あなたたちは生まれた時から負われ
胎を出した時から担われてきた。
4同じように、わたしはあなたたちの老いる
日まで
白髪になるまで、背負って行こう。
わたしはあなたたちを造った。
わたしが担い、背負い、救い出す。

8背く者よ、反省せよ
思い起こし、力を出せ。
9思い起こせ、初めからのことを。
わたしは神、ほかにはいない。
わたしは神であり、わたしのような者はいな
い。

10わたしは初めから既に、先のことを告げ
まだ成らないことを、既に昔から約束してお
いた。
わたしの計画は必ず成り
わたしは望むことをすべて実行する。
11東から猛禽を呼び出し
遠い国からわたしの計画に従う者を呼ぶ。
わたしは語ったことを必ず実現させ
形づくったことを必ず完成させる。
12わたしに聞け、心のかたくなな者よ
恵みの業から遠く離れている者よ。
13わたしの恵みの業を、わたしは近く成し遂
げる。
もはや遠くはない。
わたしは遅れることなく救いをもたらす。
わたしはシオンに救いを
イスラエルにわたしの輝きを与えることにし
た。

GIVE&TAKEの関係は良好な人付き合いやコミュニケーションを築くために時には必要です。しかし、神と人との関係を見るとき、神からの一方的なGIVE&GIVEと言えます。ずっと善いものだけを惜しむことなく与えて続けてくださることに、感謝して喜んで受け取りましょう。

10月19日(土) ルカによる福音書19章41-44節

41エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、 42言われた。
「もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……。しかし今は、それがお前には
見えない。 43やがて時が来て、敵が周りに堡壘を築き、お前を取り巻いて四方から攻め寄
せ、 44お前とそこにいるお前の子らを地にたたきつけ、お前の中の石を残らず崩してしまう
だろう。それは、神の訪れてくださる時をわきまえなかったからである。」

平和が嫌いという人はおそらくいないでしょう。多くの人は平和を望んでいるはずですが。エルサレムの人々が「平和の道をわきまえていない」ことをイエスさまは嘆き涙を流されました。口では平和平和と言いながら、神との正しい関係が損なわれていたからです。

第29課 エレミヤの傷と苦しみ

聖書箇所：エレミヤ書10章17－24節

主題聖句：主よ、わたしを懲らしめてください しかし、正しい裁きによって。(24節)

17 包囲されて座っている女よ
地からお前の荷物を集めよ。
18 主はこう言われる。
見よ、今度こそ
わたしはこの地の住民を投げ出す。
わたしは彼らを苦しめる
彼らが思い知るように。

19 ああ、災いだ。
わたしは傷を負い
わたしの打ち傷は痛む。
しかし、わたしは思った。
「これはわたしの病
わたしはこれに耐えよう。」
20 わたしの天幕は略奪に遭い
天幕の綱はことごとく断ち切られ
息子らはわたしのもとから連れ去られて

ひとりもいなくなった。
わたしの天幕を張ってくれる者も
その幕を広げてくれる者もない。
21 群れを養う者は愚かになり
主を尋ね求めることをしない。
それゆえ、彼らはよく見守ることをせず
群れはことごとく散らされる。
22 声がある。見よ、知らせが来る。
北の国から大いなる地響きが聞こえる。
それはユダの町々を荒廃させ
山犬の住みかとする。
23 主よ、わたしは知っています。
人はその道を定めえず
歩みながら、足取りを確かめることもできません。
24 主よ、わたしを懲らしめてください
しかし、正しい裁きによって。
怒りによらず
わたしが無に帰することのないように。

今日の聖句はエレミヤの何とも悲痛な想いを感じる箇所です。預言者として今日の箇所のような最終忠告のような内容をイスラエルの民に語るのは本当に覚悟がいるのではないのでしょうか？

「わたしはこの地の住民を投げ出す。
わたしは彼らを苦しめる
彼らが思い知るように。」(18節)
「北の国から大いなる地響きが聞こえる。
それはユダの町々を荒廃させ
山犬の住みかとする。」(22節)

南ユダ王国の末期、いつ滅ぼされるか分からない状況の中で、(ヤコブの)神さまに依り頼もうとせずに、他国の支援を求めるためにその国の偶像神を受け入れ崇めるといふ、滅びの道へと歩んでいる王と民への想い。

「群れを養う者は愚かになり
主を尋ね求めることをしない。」(21節)
「主よ、わたしは知っています。
人はその道を定めえず
歩みながら、足取りを確かめることもできません」(23節)

どんなに神のみ言葉を語っても王や民に声は届かず、むしろ疎まれてしまう状況の中、それでも語り続けるエレミヤの想いがにじみ出ています。

「ああ、災いだ。

わたしは傷を負い

わたしの打ち傷は痛む。

しかし、わたしは思った。

『これはわたしの病

わたしはこれに耐えよう。』」（19節）

自分の力ではこの国の滅びへの歩みを変えることが出来ない想い。神さまに与えられた使命を果たせていないという苦悩が受け取れます。

「主よ、わたしを懲らしめてください

しかし、正しい裁きによって。怒りによらず

わたしが無に帰することのないように。」（24節）

しっかり神さまに自分の苦しさ、辛さを言葉にするエレミヤ。それだけ熱心に神さまに従っていることが受け取れます。聖書教育誌にも「私たちも素直に神さまに自分の気持ちを訴えることが大切である」と書かれています。また、エレミヤは12章1節2節でこう語っています。

「正しいのは、主よ、あなたです。

それでも、わたしはあなたと争い

裁きについて論じたい。

なぜ、神に逆らう者の道は栄え

欺く者は皆、安穩に過ごしているのですか

あなたが彼らを植えられたので、彼らは根つき、育って、実を結びます。

彼らは口ではあなたに近づきますが、心はあなたから遠ざかっています。」

この箇所を読んだ時、私はエレミヤさんを「凄く人間的な想いを持った熱い方だな」と親近感を覚えました。神さまに預言者として立てられ従いつつ、この様な想いを持たれていたんだと。本当に素直な気持ちで自分の想いを神さまに訴えているエレミヤの言葉が記されています。今の世でも訴えたい想いですね。自分の気持ちを正直に言葉にしてぶつけてきてくれる者を私たちの信じる神さまは喜びを持って受け止めて下さり、その想いに応えて下さるのではないのでしょうか。

～分かち合い～

- 自分の想い（辛さや、悲しさ、喜びも含め）を素直に神さまに伝え、祈った経験はありますか？

今週の聖書日課

10月21日(月) マタイによる福音書23章37-39節

37「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。38見よ、お前たちの家は見捨てられて荒れ果てる。39言うておくれ、お前たちは、『主の名によって来られる方に、祝福があるように』と言うときまで、今から後、決してわたしを見ることがない。」

時に厳しい言葉で人々に主の御心を示し、導かねばならなかった神の使者たちを逆怨みして、幾人も殺してしまうイスラエルの人々でした。主が何度も悔い改めを求めても頑なに応じません。主は見捨てることも荒れることも望まれておられません。示された時に悔い改めて、主のみ翼の内に過ごさせていただく者でありたいです。

10月22日(火) ハバクク書2章2-4節

2主はわたしに答えて、言われた。

「幻を書き記せ。

走りながらでも読めるように

板の上にはっきりと記せ。

3定められた時のために

もうひとつの幻があるからだ。

それは終わりの時に向かって急ぐ。」

人を欺くことはない。

たとえ、遅くなっても、待っておれ。

それは必ず来る、遅れることはない。

4見よ、高慢な者を。

彼の心は正しくありえない。

しかし、神に従う人は信仰によって生きる。

日々忙しくネットや空路の発達した現代の私たちは、待つことが苦手な人が多いのではないのでしょうか？遠大なる神さまのご計画は、私たちが勝手に「その時」を決めることは出来ません。主の訓練により忍耐力をいただいて、与えられた御言葉の成就を待つことのできる者にさせてください。

10月23日(水) 出エジプト記32章31-34節

31モーセは主のもとに戻って言った。「ああ、この民は大きな罪を犯し、金の神を造りました。32今、もしもあなたが彼らの罪をお赦しくださるのであれば……。もし、それがかなわなければ、どうかこのわたしをあなたが書き記された書の中から消し去ってください。」33主はモーセに言われた。「わたしに罪を犯した者はだれでも、わたしの書から消し去る。34しかし今、わたしがあなたに告げた所にこの民を導いて行きなさい。見よ、わたしの使いがあなたに先立って行く。しかし、わたしの裁きの日に、わたしは彼らをもその罪のゆえに罰する。」

モーセが主に呼ばれて神殿建築の詳細な指示を戴いている40日の間に、偶像礼拝と言う大きな罪を犯してしまったアロンとイスラエルの民。待つことが出来ず、目に見えるものに頼りたくなる私たちの弱さをもろに垣間見ます。主の怒りに対して、命をかけたモーセの真剣な執りなしの祈りに、日々の悔い改めの大切さ、執りなしの祈りの大切さを学びます。

10月24日(木) マルコによる福音書12章38-44節

38イエスは教えの中でこう言われた。「律法学者に気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回ることや、広場で挨拶されること、39会堂では上席、宴会では上座に座ることを望み、40また、やもめの家を食べ物にし、見せかけの長い祈りをする。このような者たちは、人一倍厳しい裁きを受けることになる。」

41イエスは賽銭箱の向かいに座って、群衆がそれに金を入れる様子を見ておられた。大勢の金持ちがたくさん入れていた。42ところが、一人の貧しいやもめが来て、レプトン銅貨二枚、すなわちクアドランスを入れた。43イエスは、弟子たちを呼び寄せて言われた。「はっきり言うておくれ。この貧しいやもめは、賽銭箱に入れている人の中で、だれよりもたくさん入れた。44皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っている物をすべて、生活費を全部入れたからである。」

常に心に留めたい箇所です。律法学者から信仰生活が長くなると落ち入りやすい罫を教えられ、又貧しいやもめの方から神さまへの思いの丈をしっかりと形にあらわすことの大切さを教えられました。常に神さまに見守られて過ごしていますが、様々な形でいつも感謝の思いを主にお返ししているかを問われます。

10月25日(金) マタイによる福音書20章25-28節

25そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では支配者たちが民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。26しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、27いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい。28人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」

この世のシステムと真逆で、一番尊いイエスさまが豊かな豊かな神さまの御元から、私たちの罪の救いのために低くなってこの世に降って下さいました。今世界中で、苦しみ悲しみに呻く人々、孤独な人々に、イエスさまの愛と救いが、そして必要な助けが届きますように！国々のリーダーの方々の心が柔らかくされ真の平和が来ますように、主どうぞ憐れんでください。

10月26日(土) エゼキエル書34章1-16節

1主の言葉がわたしに臨んだ。2「人の子よ、イスラエルの牧者たちに対して預言し、牧者である彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。災いだ、自分自身を養うイスラエルの牧者たちは。牧者は群れを養うべきではないか。3お前たちは乳を飲み、羊毛を身にまとい、肥えた動物を屠るが、群れを養おうとはしない。4お前たちは弱いものを強めず、病めるものをいやさず、傷ついたものを包んでやらなかった。また、追われたものを連れ戻さず、失われたものを探し求めず、かえって力づくで、苛酷に群れを支配した。5彼らは飼う者がいないので散らされ、あらゆる野の獣の餌食となり、ちりちりになった。6わたしの群れは、すべての山、すべての高い丘の上で迷う。また、わたしの群れは地の全面に散らされ、だれひとり、探す者もなく、尋ね求める者もない。7それゆえ、牧者たちよ。主の言葉を聞け。8わたしは生きている、と主なる神は言われる。まことに、わたしの群れは略奪にさらされ、わたしの群れは牧者がいないため、あらゆる野の獣の餌食になろうとしているのに、わたしの牧者たちは群れを探しもしない。牧者は群れを養わず、自分自身を養っている。9それゆえ牧者たちよ、主の言葉を聞け。10主なる神はこう言われる。見よ、わたしは牧者たちに立ち向かう。わたしの群れを彼らの手から求め、彼らに群れを飼うことをやめさせる。牧者たちが、自分自身を養うことはもはやできない。わたしが彼らの口から群れを救い出し、彼らの餌食にはさせないからだ。

11まことに、主なる神はこう言われる。見よ、わたしは自ら自分の群れを探し出し、彼らの世話をする。12牧者が、自分の羊がちりちりになっているときに、その群れを探るように、わたしは自分の羊を探す。わたしは雲と密雲の日に散らされた群れを、すべての場所から救い出す。13わたしは彼らを諸国の民の中から連れ出し、諸国から集めて彼らの土地に導く。わたしはイスラエルの山々、谷間、また居住地で彼らを養う。14わたしは良い牧草地で彼らを養う。イスラエルの高い山々は彼らの牧場となる。彼らはイスラエルの山々で憩い、良い牧場と肥沃な牧草地で養われる。15わたしがわたしの群れを養い、憩わせる、と主なる神は言われる。16わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを減ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う。

イスラエルの牧者に対して、厳しい言葉で大きなポジションの者には大きな責任が伴うことが書かれています。私たち羊の一匹一匹も「弱った者を強め、病める者を癒し、傷ついた者を包んでくださる神さま」とデポジションによってしっかり結ばれ、みことばの土台に立たせてくださいますように🙏

第30課 真の牧者

聖書箇所：エレミヤ書23章1－6節

主題聖句：彼らを牧する牧者をわたしは立てる。群れはもはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることもない（4節）

1「災いだ、わたしの牧場の羊の群れを滅ぼし散らす牧者たちは」と主は言われる。2それゆえ、イスラエルの神、主はわたしの民を牧する牧者たちについて、こう言われる。

「あなたたちは、わたしの羊の群れを散らし、追い払うばかりで、顧みることをしなかった。わたしはあなたたちの悪い行いを罰する」と主は言われる。

3「このわたしが、群れの残った羊を、追いやったあらゆる国々から集め、もとの牧場に帰らせる。群れは子を産み、数を増やす。4彼らを牧する牧者をわたしは立てる。群れはもはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることもない」と主は言われる。

5見よ、このような日が来る、と主は言われる。

わたしはダビデのために正しい若枝を起こす。

王は治め、栄え

この国に正義と恵みの業を行う。

6彼の代にユダは救われ

イスラエルは安らかに住む。

彼の名は、「主は我らの救い」と呼ばれる。

今週の聖書教育誌の週題は「真の牧者」です。

23:5 見よ、このような日が来る、と主は言われる。わたしはダビデのために正しい若枝を起こす。王は治め、栄え この国に正義と恵みの業を行う。

このエレミヤの預言はいつの時代のものかの確定は難しいとも言われていますが、南ユダ王国の末期のヨヤキム王の時代(前609～589年)と考えられます。北イスラエルがアッシリアにより滅亡(前722年)した有り様を見ていた南ユダの王や政治指導者、宗教指導者たちは時代の変化の濁流のなかに生き残る術を求めていました。彼らはアッシリアの衰退を見て自分たちはその脅威から逃れることができたと考えていたのでしょうか。

列王記下23:37 彼は先祖たちが行ったように、主の目に悪とされることをことごとく行った。

ユダの王や民は真の神の言葉を忘れてしまったかのように他民族の偶像を主の神殿において平然と礼拝をする有様でした。彼らはヒゼキヤ王の時代(前701年)にアッシリアに包囲され陥落寸前だったエルサレムが主なる神により守られたことを誇りとしていたのかもしれない。神殿さえあればどんな脅威からも守られると本気で信じていたのです。そのような時に南ユダの民の神の契約の言葉に従わない態度は、神の怒りの裁きを招くと預言する言葉は彼らにとって目障りなものでしかなかったのです。エレミヤの告げる言葉は神から預かった言葉なのかとさえ言い放ちます。

17:15 御覧ください。彼らはわたしに言います。「主の言葉はどこへ行ってしまったのか。それを実現させるがよい」と。

神の言葉を預かったエレミヤでしたがユダの民の背信の態度と攻撃は若いエレミヤにとって耐え難いものでした。

12:1 正しいのは、主よ、あなたです。それでも、わたしはあなたと争い 裁きについて論じた
い。なぜ、神に逆らう者の道は栄え 欺く者は皆、安穩に過ごしているのですか。

エレミヤは神に問いかけます。それは現代の私たちも抱く問いかけでもあります。不正義、不
条理が絶え間なく私たちの生活に押し寄せてきます。自分の力でいくら抗ってもどうにもならな
い無力感と絶望に飲み込まれてしまいそうです。

ついにはエレミヤは神に対して「**20:7 あなたがわたしを惑わす・笑い者にされて人は皆、嘲
ります**」と嘆いています。預言の言葉が「**20:8 恥とそしり**」となっていると嘆くのです。エレミ
ヤは預言者としての重荷を取り去ってほしいと願います。預言のことはいっさい口にしないとま
で思い詰めましたが彼の苦悩をいっそう重くするばかりでした。外面的に辱めとなった預言の言
葉は彼の内面的な苦悩となっていきましたが、その苦悩は内面に閉じ込めることなどできない

「**20:9 火のように燃え上がる**」ものとなりました。エレミヤは言います。「**20:9 わたしの負けで
す**」エレミヤは預言の使命は、彼の意思ではなく神の強いご意思と与えてくださる試練によるも
のだと改めて自覚できたのです。

私自身の信仰も自分の力だけに頼らず、神の前にへりくだり、神を信頼して、み旨に聴き従う
者でありたいと改めて思わされました。

神の使命に真実に立ち帰ったエレミヤは神の言葉をより力強く取り次ぎ、迫害を受けて足枷に
繋がれても挫けることはありませんでした。神に召し出された預言者として南ユダの滅亡とバビ
ロン捕囚とエルサレムの神殿の崩壊を預言しました。さらに捕囚の民とならず残された者たちにも
将来の希望を預言しました。それだけではなく「**真の牧者**」、救い主・メシヤの来られる日、
「**その日**」が来ることを預言したのです。それはバビロン捕囚が始まり人々の絶望の渦中のなか
での回復の預言は人々に大いなる希望と慰めを与えるものでした。

23:4 「彼らを牧する牧者をわたしは立てる。群れはもはや恐れることも、おびえることもな
く、また迷い出ることもない」と主は言われる。

エレミヤは捕囚からの回復と言えるこの預言から、やがて来る新しい時代には「**真の牧者**」に
より忠実な王、指導者が立てられ、そのもとに多くの忠実な宗教指導者、政治指導者が立てられ
てイスラエルの回復の希望を描いています。このことは私たちの万人祭司制を特徴のひとつとす
る常盤台教会の成長の大切な視点となるのではと私は思われています。

23:5～6 見よ、このような日が来る、と主は言われる。わたしはダビデのために正しい若枝を起
こす。王は治め、栄え この国に正義と恵みの業を行う。彼の代にユダは救われ イスラエルは安
らかに住む。彼の名は、「主は我らの救い」と呼ばれる。

背信と不正の時代は神の審判とともに終わり、捕囚からの帰還の後に「**正しい若枝**」により新
しい時代が訪れると告げます。バビロン捕囚からの帰還は第二の出エジプトと呼ばれています。
この出来事を成したのはユダの民でもエレミヤでもなく神ご自身のイスラエルの民に対する愛な
のです。

私も真の牧者であられるイエス・キリストに信頼して信仰の旅路を悩みながらも歩むときに、
エレミヤが味わったような試練が行く手に立ち塞がるのが幾度となくあります。挫けそうにな
る私に聖霊の助けと導きをいただいて祈るなかで、平安が与えられています。そして、神の家族
の教会の繋がりのなかで信徒牧者のように働かれている兄弟姉妹の方々から励まされる恵みにい
つも感謝しています。

～分かち合い～

- あなたが体験した試練を思い起こし分かち合ってみましょう。

10月28日(月) 創世記28章10-15節

10ヤコブはベエル・シェバを立ってハラシムへ向かった。11とある場所に来たとき、日が沈んだので、そこで一夜を過ごすことにした。ヤコブはその場所にあった石を一つ取って枕にして、その場所に横たわった。12すると、彼は夢を見た。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びており、しかも、神の御使いたちがそれを上ったり下ったりしていた。13見よ、主が傍らに立って言われた。

「わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今横たわっているこの土地を、あなたとあなたの子孫に与える。14あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり、西へ、東へ、北へ、南へと広がっていくであろう。地上の氏族はすべて、あなたとあなたの子孫によって祝福に入る。15見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。」

「あなたの子孫は大地の砂粒のように多くなり広がっていく。わたしは、あなたと共にいる。あなたを見守り、決して見捨てない」主は共にいて見守り、導いてくださいます。罪深いわたしたちを愛してくださる主に感謝致します。

10月29日(火) イザヤ書46章10-13節

10わたしは初めから既に、先のことを告げ
まだ成らないことを、既に昔から約束しておいた。
わたしの計画は必ず成り
わたしは望むことをすべて実行する。
11東から猛禽を呼び出し
遠い国からわたしの計画に従う者を呼ぶ。
わたしは語ったことを必ず実現させ
形づくったことを必ず完成させる。
12わたしに聞け、心のかたくなな者よ
恵みの業から遠く離れている者よ。
13わたしの恵みの業を、わたしは近く成し遂げる。
もはや遠くはない。
わたしは遅れることなく救いをもたらす。
わたしはシオンに救いを
イスラエルにわたしの輝きを与えることにした。

「わたしの計画は必ず成り、わたしは望むことをすべて実行する」わたしの生まれる前から、わたしを思ってくれていた主、今、この世界に生まれ、あなたに生かされて過ごしています。たくさんの恵みをいただき、まわりの人に支えられ生かされています。ありがとうございます。

10月30日(水) イザヤ書30章18-21節

18それゆえ、主は恵みを与えようとして
あなたたちを待ち
それゆえ、主は憐れみを与えようとして
立ち上がられる。
まことに、主は正義の神。
なんと幸いなことか、すべて主を待ち望む人
は。
19まことに、シオンの民、エルサレムに住む
者よ
もはや泣くことはない。

主はあなたの呼ぶ声に答えて
必ず恵みを与えられる。
主がそれを聞いて、直ちに答えてくださる。
20わが主はあなたたちに
災いのパンと苦しみの水を与えられた。
あなたを導かれる方は
もはや隠れておられることなく
あなたの目は常に
あなたを導かれる方を見る。
21あなたの耳は、背後から語られる言葉を聞く。
「これが行くべき道だ、ここを歩け
右に行け、左に行け」と。

「もはや泣くことはない。主は呼ぶ声に答えてくださる。恵みを与えてくださる。そして、わたしを導いてくださる」一緒に歩いてくださる主。一緒に泣いて、一緒に喜んでくださる主。歩む道を示してくださる主。「わたしはいつも共にいる」主よ、感謝致します。

10月31日(木) 詩編126編5-6節

5涙と共に種を蒔く人は
喜びの歌と共に刈り入れる。
6種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は
束ねた穂を背負い
喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

涙と共に過ごしていた日々、それは決して無駄ではありません。主があなたの心に涙を恵みに変えて蓄えてくださっていますから。その恵みに気づいた時、喜びの歌となるのです。

11月1日(金) コリントの信徒への手紙II 5章17節

17だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過去り、新しいものが生じた。

「キリストと結ばれた人はだれでも、新しく創造された者なのです」イエスさまと結ばれ、イエスさまの愛を感じた時、あなたの心に新しい光が射し込んできます。それは新たな喜びの光です。

11月2日(土) ルカによる福音書24章1-12節

1そして、週の初めの日の明け方早く、準備しておいた香料を持って墓に行った。2見ると、石が墓のわきに転がしてあり、3中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。4そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。5婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。6あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。7人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。」8そこで、婦人たちはイエスの言葉を思い出した。9そして、墓から帰って、十一人とほかの人皆に一部始終を知らせた。10それは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして一緒にいた他の婦人たちであった。婦人たちはこれらのことを使徒たちに話したが、11使徒たちは、この話がたわ言のように思われたので、婦人たちを信じなかった。12しかし、ペトロは立ち上がって墓へ走り、身をかがめて中をのぞくと、亜麻布しかなかったので、この出来事に驚きながら家に帰った。

「なぜ、生きておられる方を捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ」イエスさまが復活されたことで、希望が生まれました。希望が弟子たちに勇気を与えました。伝道の道へと歩んで行きます。今、イエスさまは世界中の多くの人の心に生きておられます。わたしの心にもおられます。救いに導いてくださるイエスさま、賛美致します。





2024.10 成人科